



上田薬剤師会 発

薬剤師の

ちょっと薬に立つお話

YAKUNI
TATSU
OHANASHI
VOL.79

Vol.79

地域の皆さんの健康のために
さまざまな活動をしている
上田薬剤師会から、
健やかな毎日をつくるために
ちょっと役立つお話を
お届けしていきます。

毎月「第2土曜日」の
週刊うえだを、どうぞお楽しみに!

今月のTOPICS

連休とお薬

間もなくゴールデンウィークです。昨年よりは短いものの、祝日と休日が何日も続きます。連休に入る前にお薬にかかわることで気を付けたいポイントを、薬剤師の上原辰男さんに聞きました。



「いつもの薬」がなくなる前に

慢性的疾患などで定期的にお薬をもらっている人は、連休分のお薬が間に合うかどうか今のうちにチェックしましょう。お薬の終わりが連休にかかりそうな場合、不足しそうな場合は早めに医療機関を受診しておきましょう。

おくすり手帳は持っていきましょう

旅行などに出かける際にも、おくすり手帳を持っていきましょう。出かけた先で万が一具合が悪くなったり、病気やけがをして医療機関を受診した場合にも、ふだん飲んでいる薬やこれまでの副作用歴などの記録があると、対応がスムーズです。

休日、夜間に困ったら

それでもお薬のことで困ったら、上田薬剤師会には当番薬局があります。かかりつけの薬局に連絡がつかなくても、当番で対応してくれる薬局がありますので、相談してください。

GW 休日 夜間

お薬のことで困ったときは…まずは

「かかりつけ薬剤師・薬局」

へ連絡しましょう!

休日 に連絡がつかない場合は、お近くの「休日当番薬局」へ!

※「週刊うえだ」内に当番薬局一覧が掲載されています。
※当番薬局は、ホームページでも確認できます。

<http://www.uedayaku.org/>



夜間 に連絡がつかない場合は、★当番薬局へ転送されます★

夜間受付電話 ☎0268-21-0660 へ! (午後7時～翌朝7時)

はい、お答えします!

Q 「食後」の薬はなぜ食後に飲まないといけないのでしょうか。また何分後まで「食後」なのでしょう。(上田市中丸子・46歳・男性)

A まず、「食後」とは、食事が終わって約30分以内のことです。薬の効果がもっとも発揮できるよう、成分や目的によって服用回数、時間、間隔などが決められています。食事の後、胃の中に食べ物があると有効な効果が得られる薬や、空腹時に飲むと胃に負担をかけてしまう薬などは食後に服用するよう決められています。決められた服薬時間を守ることは、薬の効果と安全性の点からも重要なことです。飲み忘れなど心配なことがある場合は、かかりつけ薬剤師・薬局に相談しましょう。

このコーナーでは毎月、読者の方からの質問に薬剤師がお答えします。お薬に対する素朴な疑問、質問、なんでもお寄せください。

宛先 ハガキ 〒386-0012 上田市中央6-3-41
週刊うえだ「はい、お答えします!」係
メール weekly-ueda@po3.ueda.ne.jp
FAX 0268-22-6201



特集 調剤報酬が改定されました

2020年4月、「調剤報酬」が改定となりました。2年に1度改定されるこの「調剤報酬」は、薬の価格だけでなく薬剤師の存在意義や働き方にも影響する重要な枠組みです。今回施行された調剤報酬改定ではどのような方向性が示されたのでしょうか。薬剤師の関 徹也さんに聞きました。



「調剤報酬」とは?

病院や診療所を受診して発行された処方せんについて、薬局で薬剤師が薬を調剤して患者さんにお渡しした時に、薬局側が受け取る報酬のことです。「健康保険法」に基づき、薬剤料、調剤技術料、薬学管理料などに区分されています。

「調剤報酬改定」とは?

より時代に合った質の高い医療を提供するため、国は2年に1回、薬の価格(薬剤料)や、調剤技術料、薬学管理料などの算定方法を見直して改定を実施します。今年の4月がちょうどその時期になります。

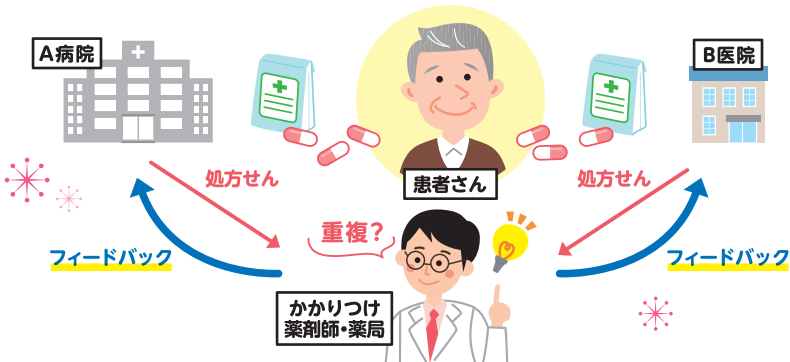
今回の改定ポイントは?

「対物」業務から「対人」業務への転換です。処方せんを受け取ってから薬剤を交付するまでの調剤業務(対物)から、患者さんに対する丁寧な服薬指導や、在宅での薬管理、医療機関への副作用や服薬状況のフィードバックなど、患者さんを中心にした業務(対人)が重視される内容へとシフトしています。

CASE 1 薬の重複チェック

今回新たに評価された取り組みは、たとえば、複数の医療機関にかかり、多くの薬を服用している患者さんについて、重複している薬が確認された場合、薬剤師が処方医に情報をフィードバックして重複解消の提案を行うケース。

これは、みなさんが日ごろ利用しているかかりつけ薬剤師・薬局であれば、経験された方もいるでしょう。上田薬剤師会の会員薬局では普通に行われていた取り組みですが、今回、あらためて国から評価されることになったということです。



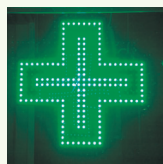
CASE 2 ICTの活用、地域との連携

情報通信機器を利用した服薬指導や、地域の薬局薬剤師が医療機関と連携することによる質の高い外来がん化学療法への取り組みの評価などが新たに追加されました。これも、上田薬剤師会では以前より取り組んできたことです。

今後は、ますます地域の住民のみなさんに対して、
薬剤師が身近であり、より専門性を求められる存在に
なっていくでしょう。

私たちは、地域のみなさんが健康でいられるために
より頼っていただける、地元の
かかりつけ薬剤師・薬局を目指します!!

▲上田薬剤師会「認定基準薬局」の目印、グリーンクロス看板



HPでバックナンバーも
ご覧いただけます

<http://www.uedayaku.org/>

